

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	果実の木豊成		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 15日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 15日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 1月 15日		～ 令和 8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>・訪問支援時の際は、管理者・児童発達支援管理責任者と一緒に有資格者(教員、保育士、等)も訪問、複数の視点から児童の様子を観察し、支援に入ることができる。</p>	<p>・保護者の要望(見て欲しい授業、等)を確認後、職員間で話し合いを行い、授業内容や支援方針等を決定、学校と調整している。保護者の要望を取り入れつつ学校と連携し、利用児童に合った学校での支援、放デイでの支援を検討している。</p>	<p>・訪問支援の希望が増えている為、訪問支援員を増員し、より多くの視点から支援できるよう検討している。</p> <p>・引き続き、保護者の要望を確認後に訪問先と日程を調整し、保護者・訪問先それぞれが満足できる支援を目指していく。</p>
2	<p>・当事業所内で放課後等デイサービスを行っており、訪問支援利用者は放デイも利用している。その為、利用児童の放課後の様子も詳細に分かり、学校・放デイ両方からの視点で支援を行うことができる。</p>	<p>・学校での支援だけでなく、当事業所(放デイ)での支援についても学校側と話している。その為、学校・放デイで支援の統一ができ、同様に家庭との連携・支援の統一も行っている。</p>	<p>・引き続き、学校・家庭・放デイ等で支援の統一を図り、児童が安心して生活できるよう支援していく。他事業所を利用している児童については、他事業所も含めた連携、情報共有を行い、より良い支援を目指していく。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>・訪問支援の際、利用児童以外の児童が訪問職員の様子を気にしてしまうことがあった。</p> <p>・利用児童が訪問職員の様子を気にしてしまい、集中が難しくなることがあった。</p>	<p>・教室に入って支援する場面もある為、特に利用児童以外からはなぜ先生以外の大人がいるか気になってしまい、集中しにくくなることがあったと考えられる。</p>	<p>・事前に学校と打ち合わせて、事前に児童に訪問者がいることを伝えてもらう、教室に入らずに廊下等から観察する、リモートで観察を行う等を検討している。</p>
2	<p>・訪問支援後のカンファレンスが短時間になってしまう場合がある。</p>	<p>・当事業所内で放デイを行っており、学校と話し合いの時間を合わせる事が難しい場合がある。授業後の短時間、もしくは放課後・別日に担任と話す時間を設けられるようお願いしている(数日後に改めて話し合っている)。</p>	<p>・放デイの職員を多めに配置し、訪問支援のカンファレンスが当日に行えるよう配慮する。学校と調整し、話し合いの時間をしっかり設けていく。</p>